

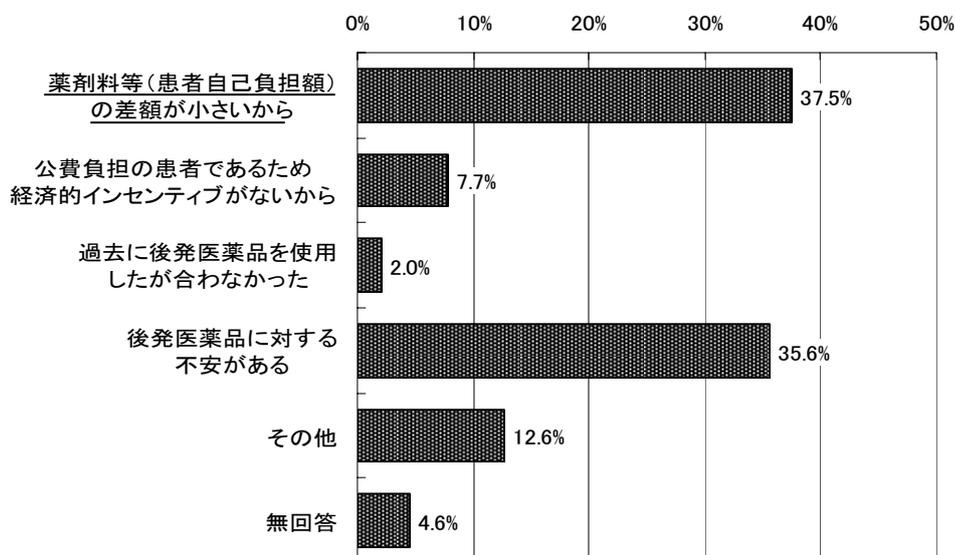
## 後発医薬品使用に係る先発医薬品と後発医薬品との価格差の影響

平成20年度 後発医薬品の使用状況調査（診療報酬改定結果検証に係る特別調査）結果のうち、後発医薬品使用に係る先発医薬品と後発医薬品との価格差を示すものは以下のとおり。

### 1 保険薬局における調査結果

- (1) 後発医薬品についての説明を行ったにもかかわらず、「患者が後発医薬品の使用を希望しなかった理由として最も多いもの」として挙げたのは、37.5%の薬局が「薬剤料等（患者自己負担額）の差額が小さいから」、35.6%の薬局が「後発医薬品に対する不安がある」と回答。（26 ページ：図表 29）

図表 29 後発医薬品についての説明を行ったにもかかわらず、患者が後発医薬品の使用を希望しなかった理由（薬局ベース、単数回答、n=944）



- (2) 後発医薬品に変更して調剤された処方せんの薬剤料の変化について、記載銘柄で調剤した場合の薬剤料は平均 754.5 点であるが、実際に調剤した薬剤料は平均 582.2 点であり、記載銘柄で調剤した場合の 77.2%となっていた。（43 ページ：図表 49）

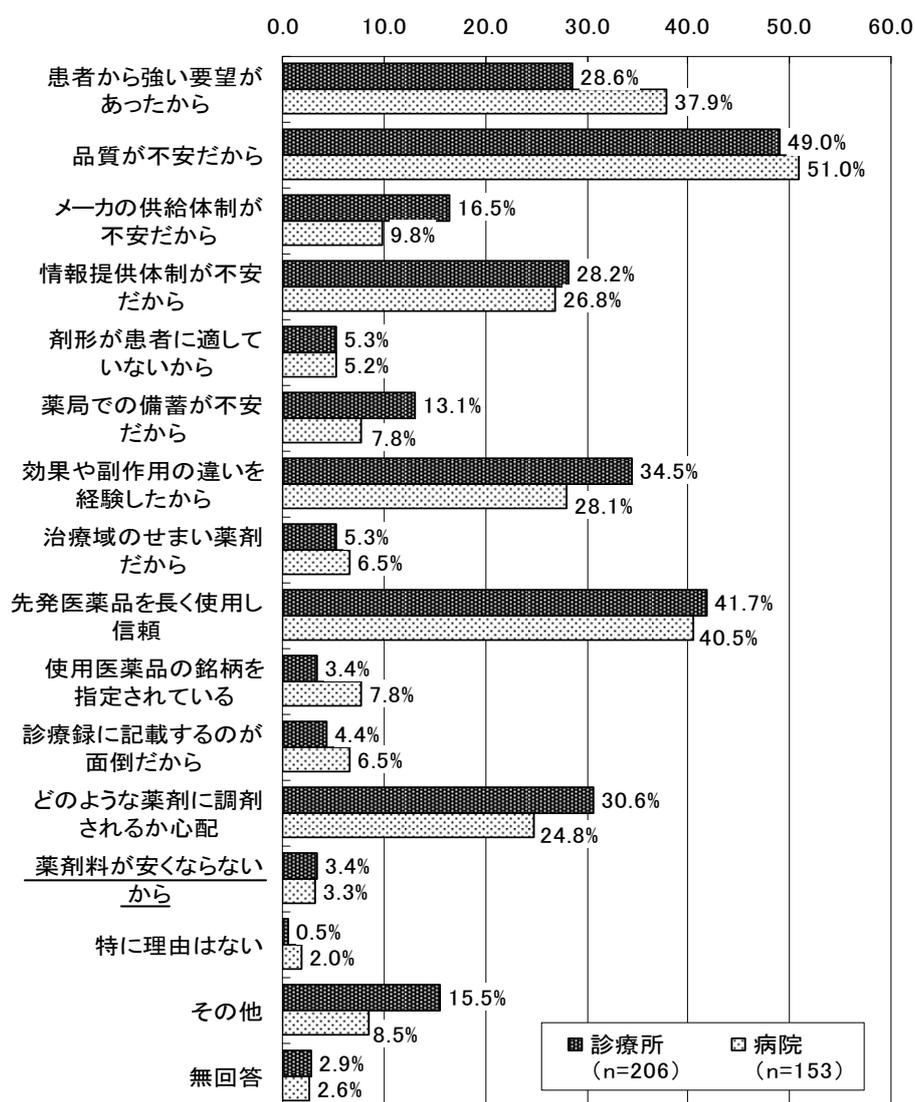
図表 49 12/8～14 に後発医薬品に変更して調剤された処方せん（7,076 枚）の状況

	平均値	標準偏差	中央値
記載銘柄により調剤した場合の薬剤料(A) (点)	754.5	1071.9	392.0
実際に調剤した場合の薬剤料(B) (点)	582.2	878.3	280.0
記載銘柄により調剤した場合の薬剤料に占める、実際に調剤した薬剤料の割合(B/A) (%)	77.2		71.4

## 2 診療所・病院・医師における調査結果

「後発医薬品への変更不可」欄に署名した理由について、診療所及び病院の医師にたずねたところ、診療所、病院ともに「品質が不安だから」（診療所 49.0%、病院 51.0%）がもっと多かったが、「薬剤料が安くないから」（診療所 3.4%、病院 3.3%）であった。（66 ページ：図表 81）

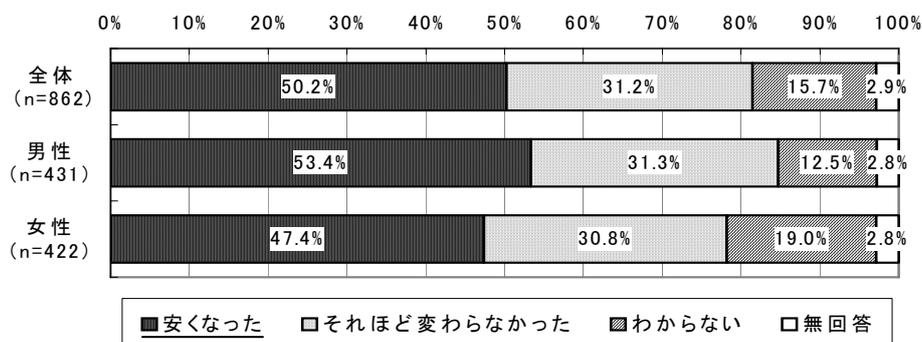
図表 81 「後発医薬品への変更不可」欄に署名した理由  
（医師ベース、複数回答）



### 3 患者に対する調査結果

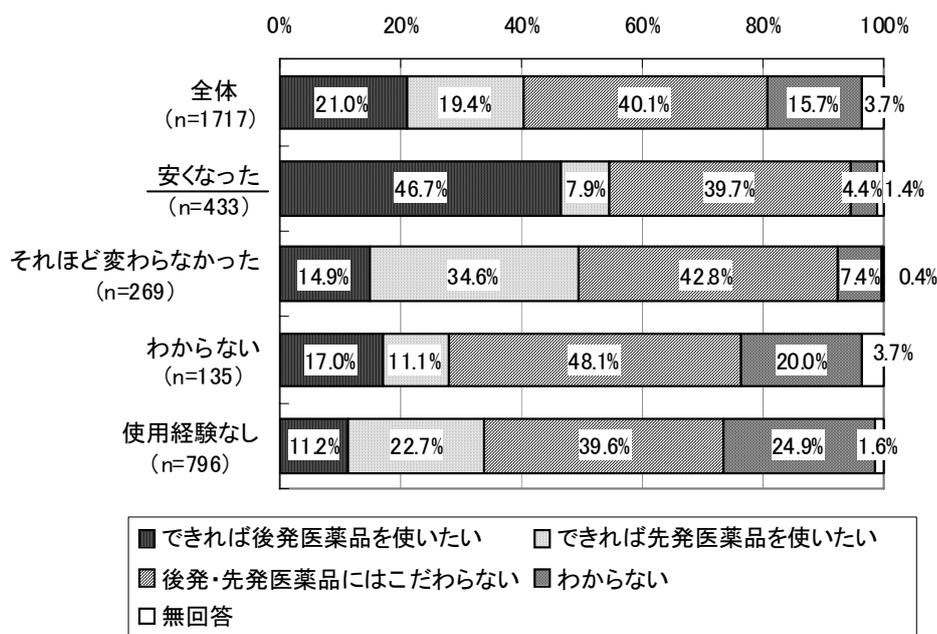
- (1) 後発医薬品を使用経験のある人に窓口での薬代の負担感をたずねたところ、「安くなった」が50.2%、「それほど変わらなかった」が31.2%、「わからない」が15.7%であった。 (109 ページ：図表 121)

図表 121 窓口での薬代の負担感（使用経験のある人、男女別）



- (2) 後発医薬品使用に対する考え方について、窓口での薬代の負担感が「安くなった」という患者では、「できれば後発医薬品を使いたい」(46.7%)が最も多く、次いで「後発・先発医薬品にはこだわらない」(39.7%)、「できれば先発医薬品を使いたい」(7.9%)の順であった。 (115 ページ：図表 127)

図表 127 後発医薬品使用に対する考え方（窓口の薬代の負担感別）



(3) 後発医薬品の使用に必要なことについて、「効果があること」(73.5%)、「副作用の不安が少ないこと」(58.0%)、「窓口で支払う薬代が安くなること」(50.5%)の順で多かった。また、後発医薬品の使用経験がある患者では60.4%が「窓口で支払う薬代が安くなること」と回答したのに対し、使用経験がない患者では42.3%であった。(118 ページ：図表 130)

図表 130 後発医薬品を使用するにあたって必要なこと  
(複数回答、後発医薬品の使用経験の有無別)

